

2018年8月13日

各 位

会 社 名	株式会社レーサム
代表者名	代表取締役社長 小町 剛
	JASDAQ コード 8890
問合せ先	上級執行役員管理本部長 片山 靖浩
電 話	03-5157-8881

サービシング事業の廃止及び子会社の株式譲渡に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、当社グループのサービシング事業を廃止するとともに、当社の連結子会社であるグローバル債権回収株式会社（以下「グローバル債権回収」といいます。）が保有するテアトル債権回収株式会社（以下「TS社」といいます。）及びつばめインベストメント株式会社（以下「TI社」といいます。）の株式、並びに、当社が保有するグローバル・インベストメント株式会社（以下「GI社」といいます。）、株式会社レーサム・キャピタル・インベストメント（以下「RCI社」といい、TS社、TI社、GI社及びRCI社を総称して、以下「本件子会社」といいます。）及びTI社の株式をアルゴ・ホールディングス株式会社（以下「アルゴ」といいます。）に譲渡すること（以下「本件株式譲渡」といいます。）を決議しましたので、下記のとおりお知らせします。

本件株式譲渡に伴い、本件子会社は、当社の子会社ではなくなります。

記

1. 当社グループにおけるサービシング事業の概要

当社グループでは、当社の連結子会社であるグローバル債権回収とTI社が、金融機関等から、主に自己勘定にて債権を購入し、これらの債権の管理回収等の業務を行ってまいりました。2017年11月には、海外を含めて、当社グループの強みを生かせる投資機会を捉えてゆくために、その活動主体として、連結子会社であるGI社を設立し、同社は海外の不良債権業務及び企業再生業務等を事業内容として活動しております。また、2018年4月には、グローバル債権回収が、更なる業容の拡大を目指して、サービシング事業を営むTS社の発行済株式の全てを取得しております。

2. サービシング事業の廃止及び株式譲渡の理由

当社グループでは、TS社の株式取得後、TS社に当社グループのサービシング事業を集約する構想の下、当社グループにおけるサービシング事業の取扱いを検討してまいりましたが、2018年6月に藤堂裕隆氏（以下「藤堂氏」といいます。）がTS社の代表取締役に就任して以降は、藤堂氏を中心に同事業の事業方針を検討するとともに、当社の新経営体制下において当社グループにおけるサービシング事業の位置づけについて検討を重ねてまいりました。かかる検討の結果、次の理由から、当社グループのサービシング事業をアルゴに売却し、アルゴの下で当社グループから独立して成長を目指すことが、当社グループにとっても最良の選択であると判断いたしました。

(1) 不良債権市場環境

当社グループは1997年にサービシング事業に参入し、現在に至っております。

現在の不良債権市場を取り巻く環境を見ると、実質的に金融円滑化の取り組みが継続していることから、外資系など同業他社が債権管理回収業から撤退し始めるなど、厳しい事業環境は継続していくことが予想されま

す。

(2) 資金効率性

サービシング事業で扱う対象債権は、不良債権であり、その性質上、回収には一定の期間を要します。債権によっては回収までの期間が数年にわたることも少なくなく、資金効率性は低いと言わざるを得ません。

当社グループ全体としては、資金効率性を重視した経営を行っておりますが、現時点でのサービシング事業の状況に鑑み、当社グループとして期待する水準の資金効率性を求めることは困難な状況であると認識しております。

(3) グループ内シナジー効果

サービシング事業が取り扱う不良債権には、担保としての不動産が付随しているものも多数存在します。

従来、当社グループの主力である資産運用事業との協業による担保不動産の価値向上とその処理は、グループ内シナジー効果を発揮する最も有効な分野と捉えて取り組んでまいりましたが、ここ数年で資産運用事業で取り扱う不動産は、規模・内容とも進化してきており、上記のようなシナジー効果を求めることは困難な状況になってきております。

(4) 売却を決定するに至った理由

上記(1)～(3)を踏まえ、当社グループとしてはサービシング事業を廃止する基本方針を固め、それに伴うサービシング事業の取扱いについて検討しておりましたところ、サービシング事業について豊富な経験と知見を有し、中長期にわたる同事業の将来性を見出している藤堂氏から、本件子会社の譲受の申し出がありました。そして、藤堂氏との協議・交渉の結果、最終的には、本件子会社を買収するために藤堂氏により設立され、同氏が代表取締役を務めるアルゴに対し、当社グループにおいてサービシング事業を営む TS 社、TI 社及び GI 社、RCI 社の株式を譲渡することにつき合意いたしました。

なお、本件子会社株式の譲渡価額は、第三者算定機関から取得した価値算定書を勘案し、当事者間で十分に協議を重ねた上で決定されており、当社としては公正な株式価値を反映したものと判断しております。

また、グローバル債権回収がサービシング事業の一環として取得した債権及び不動産等は、本件株式譲渡前に、TS 社及び GI 社に公正な価額で譲渡する予定であります。

なお、当社グループにおけるサービシング事業の廃止に伴い、グローバル債権回収は、債権管理回収業に関する特別措置法第 10 条に基づき、事業廃止に係る届出を行う予定であり、その後の取扱いについては、当社との合併による再編を基本方針として引き続き検討してまいります。

当社グループは、今後、経営資源を主力の資産運用事業及び新規事業に集中することで、更なる成長を図ります。

3. 異動する子会社の概要

① テアトル債権回収株式会社 (TS 社)

- (1) 商 号：テアトル債権回収株式会社
- (2) 所 在 地：東京都中央区八丁堀三丁目 5 番 7 号
- (3) 代 表 者：藤堂 裕隆
- (4) 事 業 内 容：特定金銭債権の管理・回収
- (5) 資 本 金：7 億円
- (6) 設 立 年 月 日：1999 年 1 月 25 日
- (7) 大株主及び持株比率：グローバル債権回収株式会社 100%
- (8) 当社（上場会社）と当該会社との間の関係：
 - 資本関係 当社の連結子会社であります。
 - 人的関係 グローバル債権回収の取締役 5 名が当該会社の取締役を兼務しております。また、GI 社の代表取締役が当該会社の代表取締役を兼務しております。
 - 取引関係 記載すべき取引関係はありません。

(9) 当該会社の最近3年間の経営成績及び財政状態

(単位：百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
純 資 産	964	931	811
総 資 産	1,453	1,471	1,339
1株当たり純資産(円)	68,865	66,535	57,993
売 上 高	769	1,432	713
営 業 利 益	65	△15	△110
経 常 利 益	60	△21	△118
当 期 純 利 益	43	△32	△119
1株当たり当期純利益(円)	3,105	△2,330	△8,541
1株当たり配当金(円)	—	—	—

② グローバル・インベストメント株式会社 (GI社)

(1) 商号：グローバル・インベストメント株式会社

(2) 所在地：東京都港区西新橋二丁目8番6号

(3) 代表者：藤堂 裕隆

(4) 事業内容：海外の不良債権業務及び企業再生業務等

(5) 資本金：1千万円

(6) 設立年月日：2017年11月17日

(7) 大株主及び持株比率：当社 100%

(8) 当社（上場会社）と当該会社との間の関係：

資本関係 当社の連結子会社であります。

人的関係 TS社の代表取締役が当該会社の代表取締役を兼務しております。

取引関係 記載すべき取引関係はありません。

(9) 当該会社の最近3年間の経営成績及び財政状態

(単位：百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
純 資 産	—	—	0
総 資 産	—	—	1
1株当たり純資産(円)	—	—	2,040
売 上 高	—	—	—
営 業 利 益	—	—	△9
経 常 利 益	—	—	△9
当 期 純 利 益	—	—	△9
1株当たり当期純利益(円)	—	—	△47,959
1株当たり配当金(円)	—	—	—

③ つばめインベストメント株式会社 (TI社)

(1) 商号：つばめインベストメント株式会社

(2) 所在地：東京都港区西新橋二丁目8番6号

(3) 代表者：塚本 康史

(4) 事業内容：債権の買取及びその処分

(5) 資本金：300万円

(6) 設立年月日：2005年9月9日

(7) 大株主及び持株比率：グローバル債権回収 62.9% 当社 36.5%

(8) 当社（上場会社）と当該会社との間の関係：

- 資本関係 当社の連結子会社であります。
 人的関係 グローバル債権回収の取締役1名が当該会社の代表取締役を兼務しております。
 取引関係 記載すべき取引関係はありません。

(9) 当該会社の最近3年間の経営成績及び財政状態

(単位：百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
純 資 産	133	135	139
総 資 産	820	877	790
1株当たり純資産(円)	151	153	157
売 上 高	52	56	101
営 業 利 益	0	1	0
経 常 利 益	0	1	Δ3
当 期 純 利 益	4	2	3
1株当たり当期純利益(円)	5	2	4
1株当たり配当金(円)	—	—	—

④ 株式会社レーサム・キャピタル・インベストメント (RCI社)

- (1) 商号：株式会社レーサム・キャピタル・インベストメント
 (2) 所在地：東京都千代田区霞が関三丁目2番1号
 (3) 代表者：小町 剛
 (4) 事業内容：貸金業
 (5) 資本金：300万円
 (6) 設立年月日：2001年1月31日
 (7) 大株主及び持株比率：当社 100%
 (8) 当社(上場会社)と当該会社との間の関係：
 資本関係 当社の連結子会社であります。
 人的関係 当社代表取締役1名が当該会社の代表取締役を兼務し、当社従業員1名が当該会社の取締役を兼務しております。
 取引関係 当社はRCI社が行っている投資事業に関してアセット・マネジメント契約を締結しております。

(9) 当該会社の最近3年間の経営成績及び財政状態

(単位：百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
純 資 産	101	97	93
総 資 産	101	97	93
1株当たり純資産(円)	1,692,793	1,617,785	1,557,958
売 上 高	324	68	10
営 業 利 益	16	Δ4	Δ3
経 常 利 益	16	Δ4	Δ3
当 期 純 利 益	16	Δ4	Δ3
1株当たり当期純利益(円)	277,898	Δ75,008	Δ59,827
1株当たり配当金(円)	—	—	—

4. 株式譲渡の相手先の概要

- (1) 商 号：アルゴ・ホールディングス株式会社
 (2) 所 在 地：東京都港区西新橋二丁目8番6号
 (3) 代 表 者：代表取締役 藤堂 裕隆

(4) 事業内容：本件株式を取得するために設立した純粋持株会社

(5) 資本金：1千万円

(6) 設立年月日：2018年7月25日

(7) 大株主及び持株比率：藤堂 裕隆 100%

(8) 当社（上場会社）と当該会社との間の関係：

当該会社の発行済株式の全てを保有し、同社の代表取締役を務める藤堂氏は、当社の連結子会社であるTS社及びGI社の代表取締役であります。同氏は、本件株式譲渡に係る当社グループの意思決定過程には参加しておらず、本件株式譲渡に関する協議・交渉にも当社の立場からは参加しておりません。

当該会社との間に記載すべき資本関係及び取引関係はなく、当該会社は、当社の関連当事者には該当いたしません。

5. 譲渡株式数、譲渡価額及び異動前後の所有株式の状況

① テアトル債権回収株式会社（TS社）

(1) 異動前の所有株式数：14,000株（議決権の数：14,000個、議決権所有割合：100%）

(2) 譲渡株式数：14,000株（議決権の数：14,000個）

(3) 異動後の所有株式数：0株（議決権の数：0個、議決権所有割合：0%）

② グローバル・インベストメント株式会社（GI社）

(1) 異動前の所有株式数：200株（議決権の数：200個、議決権所有割合：100%）

(2) 譲渡株式数：200株（議決権の数：200個）

(3) 異動後の所有株式数：0株（議決権の数：0個、議決権所有割合：0%）

③ つばめインベストメント株式会社（TI社）

(1) 異動前の所有株式数：879,103株（議決権の数：879,103個、議決権所有割合：99.48%）

(2) 譲渡株式数：879,103株（議決権の数：879,103個）

(3) 異動後の所有株式数：0株（議決権の数：0個、議決権所有割合：0%）

④ 株式会社レーサム・キャピタル・インベストメント（RCI社）

(1) 異動前の所有株式数：60株（議決権の数：60個、議決権所有割合：100%）

(2) 譲渡株式数：60株（議決権の数：60個）

(3) 異動後の所有株式数：0株（議決権の数：0個、議決権所有割合：0%）

※「所有株式数」及び「譲渡株式数」については、当社グループ全体の「所有株式数」及び「譲渡株式数」を記載しております。

※譲渡価額については、相手先との守秘義務により公表を差し控えていただきます。なお、当該譲渡価額については、第三者算定機関から取得した価値算定書を勘案し、当事者間で十分に協議を重ねた上で決定しております。

6. 異動の日程

(1) 取締役会決議日：2018年8月13日

(2) 契約締結日：2018年8月13日

(3) 株式譲渡日（株式譲渡契約の効力発生日）：2018年11月1日（予定）

（注）本件子会社のいずれについても同一日程であります。

7. 今後の見通し

本件の2019年3月期の当社連結業績への影響は軽微であります。

以上